

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

動労は 革マル松崎の しめ殺された

「日の丸・ハチマキ・タスキ・軍歌…の629翼賛集会」の行きつく先は戦争推進

産業報国会へ転落した松崎「動労」が42回全国大会を断罪する NO.4

動労「本部」第四二回全国大会を「動労さいご」の大会にせんとする革マル・松崎は方針案で「新事業体」とか「一企業一組合結成」などと、なんとか組合員をたぶらかそうとしているが、松崎の「生き残り方針」はあまりにも反労働者的であるうえに、全国の動労職場では「矛盾」が一気に噴出し、危機的状況に突き進んでいる現実をわれわれはシリーズで明らかにしてきた。中曽根・杉浦は自らのアキレス腱である松崎の危機に一層凶暴化し、革マル救済策をなりふりかまわずうち出している。われわれにとって今ほどの好機はない。たたかう全ての国鉄労働者はいまこそ決起せよ。動労革マルを職場から、国鉄から追放・一掃せよ。

「国労解体し新事業体で主力」なる方針

動労革マル・松崎は方針案の中で、「新しい事業体における労働組合・運動は『労使共同宣言』を発した四組合のたたかいが基礎となる」と前置し、「われわれ自らが『親方日の丸』意識を克服し、他へ波及させ、新事業体の主力となるため奮闘する…。」として、具体的に次の通り奮闘するとしている。

第一に、「動労組織をより強化し、労働組合として雇用を守りえずもはや存在価値のなくなったといわれている国労からの脱却を組合員に促し…。」

「十一月ダイ改」近づくとつれ矛盾激化

第二に、「四組合による共同行動を発

国鉄分割・民営へ氣勢

推進誓う20団体

「同志」鉢巻き・たすきがけ
職員

「国鉄改革に取り組む職員」の次々と舞台の上を「入場行進」。「日の丸」が一九九〇年、東京・日比谷公会堂で、一時間にわたって開かれた。さうして二百三十人の国鉄職員が会場をいっぱい埋め、分割・民営化への努力を誓い、氣勢をあげた。「同志」として「同志」を飛ばした。一方

首都圏の2300人



(6月29日、日比谷公会堂)

展させ…一企業一組合結成をはかり：労使双方に強い影響力をもつ組織をめざし…。」

第三に、「現実を直視し…『抵抗型』の運動ではなく…団体交渉・協議を重視する運動を進め…。」といている要約すれば、「生き残りをかけ国労を解体する」そして、「動労を解散して鉄労の下で一企業一組合を結成する」、そので労働組合は「ボス交渉中心にした抵抗しない、闘わない労使協調労働運動」とするということだ。

この反労働者的方針で、動労は「雇用を守る」のか、守れるわけがない。「十一月ダイ改」が近づくとつれ、松崎の「生き残り方針」の矛盾は激化し、いたるところで怒りが噴出している。

運輸職場は、「二人に一人」の合理化

国鉄当局は、夏季手当差別、「他車種教育」「人材活用センター」などの提案を矢継ぎ早に行ってきた。これは危機感をもつ動労革マルへの一時の救済策である。

だが、「十一月ダイ改」は八万人大合理化、運転は「二人に一人」の合理化だ。動労革マルがどんなに屈服しても、雇用を守ることはできないことは明白である。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！